

～ 北見赤十字病院の様々な取組について ～

<北見赤十字病院中長期運営方針>

1. 患者さんに満足度の高い優しい医療を提供します。
2. 少子高齢社会を迎え将来増加が予想される疾患に適切に対応し、政策医療に積極的に取り組むとともに、地域で求められる医療サービスの充実を図ります。
3. 災害（感染症含む）への対応力を高め、被災者に寄り添った救護活動を行います。
4. 働きやすい職場作り、充実した教育・研修体制作りを進めます。
5. 経営基盤の安定を図り、高度かつ安全な機能を備えた病院作りを進めます。
6. 地域に開かれた病院を目指します。

項目	令和3年度の取組み
1. 患者さんに満足度の高い優しい医療を提供します	
1) 患者本位の医療	<ul style="list-style-type: none"> 患者さんに副用いただくお薬についての説明体制を強化。月平均実績件数1,141件(昨年度1,127件)
2) 侵襲の少ない医療	<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡手術支援ロボット(ダヴィンチ)について、以下の手術において施設基準届出。<届け出た施設基準及び手術実施件数> <ul style="list-style-type: none"> 膀胱悪性腫瘍手術 8件 前立腺癌手術 29件 縦隔悪性腫瘍手術 2件 縦隔隔性腫瘍手術 2件 胃切除手術 9件 胃門部切除手術 2件 胃全摘手術 3件 前立腺悪性腫瘍手術 12件 胆嚢切除手術 23件(R3.7.1～) 直腸切除、切開手術 16件(R4.1.1～) (胃は施設基準取得にあたり、医師が経験しなくてはならない件数の実施を含む) 以下のとおり侵襲の少ない手術を実施。 <ul style="list-style-type: none"> 内視鏡手術(消化器) 1,022件 腹腔鏡手術 815件 胸腔鏡手術 174件 内視鏡手術(泌尿器) 380件 内視鏡手術(耳鼻咽喉科) 79件 関節鏡下手術 69件 カテーテル治療(心臓) 281件 カテーテル治療(脳) 89件 放射線治療(IMRT) 333件 放射線治療(SMART) 10件
3) 質の高いチーム医療	<ul style="list-style-type: none"> <入院センター稼働連携> <ul style="list-style-type: none"> R3.4月 外科「腹腔ヘルニア」開始 R3.8月 耳鼻科「耳鼓膜切除術」開始 R3.12月 耳鼻科「FSG(睡眠時無呼吸症候群)」開始 R4.1月 眼科「白内障」開始 R4.2月 耳鼻科「前庭窓手術」開始 R4.3月 開放病棟「内開内科院内 EMR(内視鏡的結腸切除術)」について当センター利用開始 <R3年度入院センター稼働件数> 773件 <ul style="list-style-type: none"> 消化器内科 <ul style="list-style-type: none"> EMR(内視鏡的結腸切除術) 480件 ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術) 150件 外科 <ul style="list-style-type: none"> ラパヘル(腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術) 55件 頭頸部・耳鼻咽喉科 <ul style="list-style-type: none"> 甲状腺半切除 42件 甲状腺全摘 14件 FSG(睡眠時無呼吸症候群) 13件 副鼻腔炎 2件 眼科 <ul style="list-style-type: none"> 白内障 14件 <ハートチーム委員会の活動> <ul style="list-style-type: none"> オリジナル心不全手術を構築し、地域医療機関や施設、薬局等との更なる連携拡大を図り、再入院予防に努める。
4) 第三者機関による機能評価受審	<ul style="list-style-type: none"> R3.8.17付で、特定行為区分「創傷管理関連」に係る指定研修機関として指定され、2名の看護師が受講中。 R3.6より病院機能評価の更新受審に向けて委員会を立ち上げ準備開始。R4.6本審査予定。
2. 少子高齢社会を迎え将来増加が予想される疾患に適切に対応し、政策医療に積極的に取り組むとともに、地域で求められる医療サービスの充実を図ります。	
1) がん・脳卒中・急性心筋梗塞・心不全・糖尿病・精神疾患・呼吸器疾患・整形外科的疾患・緩和医療・歯科診療の充実	<ul style="list-style-type: none"> 道立病院単独で以下の施設基準を届出 <ul style="list-style-type: none"> R3.4月 認知症ケア加算 R3.12月 脳卒中センターにおいて、これまでの遠隔画像診断に加え遠隔診療を開始。
2) 救急医療・へき地医療・周産期医療・小児医療・精神保健対策(認知症)の充実	<ul style="list-style-type: none"> 救急搬送を積極的に受け入れ、管外の医療過疎地域の患者も受け入れている。(救急車受入:3,211件) リポート利用件数 9,452件 当院へ搬送・4件 当院より搬送・・・11件
3) 救命救急センターの安定維持	<ul style="list-style-type: none"> 救命救急センター運営委員会を毎月開催し受入体制を確保している。 救命救急センター評価基準充実段階A評価を維持している。 救急病棟と救急外来の一体的運営を維持している。
4) リハビリテーション・健診体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度実績 <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション 117,696単位 健診 9,452件 R4.1より理学療法士による日曜リハ開始。
5) 救急ワークステーションとの連携	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命士と連絡を密にし、実習を積極的に受け入れている。(救急車搬送等 計7名～気管挿管3名、ピッチャー挿管4名) Dr.カー稼働件数 17件(当院に直送4件、転院搬送13件)
6) 地域完結型医療の推進・地域の医療施設や介護施設との連携推進	<ul style="list-style-type: none"> 腎臓内科領域において、遠隔診療を実施。 <ul style="list-style-type: none"> 紹介件数4,996件(紹介件数100.0%) ファーストパス(地域連携予約) 件数 10,752件 認知症・緩和ケア・介護等にかかる研修会への講師派遣(1件) 地域医療機関等への医師等派遣 <ul style="list-style-type: none"> 頭頸部・耳鼻咽喉科 134回 脳神経外科 11回 眼科 4回 内科 2回 呼吸器内科(道立) 48回 診療放射線科 17回 リハビリテーション科 6回 看護部 12回 当院職員及びオホーツカ管内医療機関及び福祉施設職員対象に各種研修会を開催。 <ul style="list-style-type: none"> 2021年度指導者研修(集計 院内47名 院外5名 参加) フィジカルアセスメント入門(集計 院内94名 院外19名 参加) フローアップ研修(集計 院内141名 院外24名 参加) 固定チームナース研修会(集計 院内159名 院外11名 参加) 認知症ポスター発表講座(集計 院内85名 院外1名 参加) 臨床病理検討会(集計 院内9名 院外1名 参加) 北海道大学レクチャー(WEB含む)(集計 院内79名 院外2名 参加) DS1・せん妄対策チーム等研修会(集計 院内110名 院外0名 参加) 精神保健等研修(集計 院内15名 院外1名 参加) 新人支援体制の構築(集計 院内69名 院外3名 参加) 内科系3診療科ナース/ナースを6回開催(集計 院内133名、院外6名参加)
7) 地域への医療サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 東京五輪2020札幌会場(マラソン)に医療スタッフを派遣(医師11名、看護師1名、救護員1名) 東京五輪2020のエクアドル陸上選手団に対する抗原検査協力。 新型コロナウイルスワクチン接種への医師・看護師・薬剤師等の派遣協力。(北見市国民健康館、北見工業大学) 北見保健所依頼の市内低年齢児に対するコロナ検体採取(咽頭)協力。
3. 災害への対応力を高め、被災者に寄り添った救護活動を行います	
1) 平時の取組・人材育成	<ul style="list-style-type: none"> R4.3月9日 北海道支那支那訓練(リモート参加6名・講師) R3.10月 院内災害対応訓練(53名参加) R3.10月 南北保健所・網走市病院主催、災害時の対応訓練(講師6名派遣) R3.12月 北海道災害医療従事者研修スタ(講師1名、受講者2名) R3.12月 日本DMAT職員養成研修(講師1名) R3.12月 日本DMAT養成研修(1名)
2) オホーツカ圏域災害拠点病院(広域救急・網走厚志・遠軽厚生・北見赤十字)の相互連携	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で訓練が実施されなかった。
3) DMAT・救護班の出動・展開及び国際活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う業務支援として職員を派遣(他医療機関、介護施設等)。 国際支援委員の育成は引き続き課題である。

項目	令和3年度の取組み
4. 働きやすい職場作り、充実した教育・研修体制作りを進めます	
1) 職場環境の整備・改善	<ul style="list-style-type: none"> 職場環境整備として、専任薬剤師に委任いただき、職員の安全衛生管理の充実を図ることが出来た。 北海道医療勤務環境改善センターの支援を受け、各部門で職場環境改善に向けた取組みを実施。 <ul style="list-style-type: none"> 衛生委員会→ストレスチェック集団分析と職員満足度調査を活用した勤務環境改善 リハビリ科→リハ科職員のキャリアパス作成 診療放射線科→人事考課制度の見直し 薬剤部→業務改善に向けた業務分析 患者支援センター→患者支援センター開設に向けた体制づくり 北見赤十字→託産室職員のキャリアパス作成 医師の時間外労働の削減、職員の有給取得推進が継続課題。 <医師時間外> <ul style="list-style-type: none"> R2.34.23 R3.39.03 <職員平均有給取得日数> <ul style="list-style-type: none"> R2.13.9日 R3.13.6日
2) 職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> アメリカニュージャージー州エリザベス市のトリニダス病院との交流は、今年も新型コロナウイルス拡大の影響で中止となったが、Webによる意見交換会を実施。第2回→4/6 各種研修会内及び参加状況の積極的な公表を継続実施。 R3.9月 階層別研修を実施(参加者26名)。 院内研修への参加 <ul style="list-style-type: none"> 研修等参加・・・延458人 学会発表・・・延54人
3) 臨床研修医、専攻医等の育成体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 当院単独採用18名。 <ul style="list-style-type: none"> 麻酔科にて勤務日赤からの臨床研修医1名、小児科にて旭川日赤からの臨床研修医3名、昭和大学から1名を各1ヶ月間受入。 当院より北大神経内科へ2ヶ月間出向。 外科センターを4月・7月・11月の巡回開催。 当院内科専門研修Pの専攻医3名在籍。 <ul style="list-style-type: none"> (消化器内科2名、循環器内科1名) ※1名3年度修了 薬剤師採用 4名採用(R3.4.11)パート1名採用(R3.4.19) 薬学部学生への実習受け入れ <ul style="list-style-type: none"> 5名(1年生3名、2年生1名、5年生1名) 看護学生への奨学金貸与実績(看護大、医師会看護学校、札幌大 計107名)
5. 経営基盤の安定を図り、高度かつ安全な機能を備えた病院作りを進めます	
1) 健全経営の維持	<ul style="list-style-type: none"> R3年度は黒字決算となった。 収入の要因については、手術件数の増加や上位加算の取得等による診療単価の増加により増収となった。 により診療単価は増加したが患者数の減少が影響し本業の収入は予算に対し減収となった。病院全体の収入は補助金等の確保により増収となった。 支出の要因については、材料費が大幅増加。給食費は制度改正等により減少したものの、委託費の増加や光熱水費等費用の増加が大きかった。
2) ICT(情報通信技術)活用・AI(人工知能)の活用拡大	<ul style="list-style-type: none"> 電子カルテ更新スケジュールを見直し、2024年1月の稼働に向けてICTを活用し業務の効率化・標準化を図り、働き方改革を推進できるようなシステム更新を計画する。 道立病院との一体運営においても2病院対応システムを軸に情報の共有化、シームレスな運用を検討する。
3) 医療機器の導入	<ul style="list-style-type: none"> 画像管理システム(PACS)については、R3年12月に更新完了、ダヴィンチについては、R3年12月にX1にバージョンアップ完了。
4) 医療安全、感染管理体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの拡大にあたり、対策本部活動を継続。 <ul style="list-style-type: none"> 対応陽性患者数:157名 <ul style="list-style-type: none"> 日赤→入院28名 外来28名 道立→入院36名 外来なし 新型コロナウイルス患者受入にかかるフロー等について、随時見直しを実施。 入院患者への面会禁止を継続。 新型コロナウイルス患者のホテル療養についてスタッフを派遣。 医療安全、感染症にかかる研修会、勉強会開催及び職員参加実績 <ul style="list-style-type: none"> 医療安全関係 21回 延2,945人 感染症関係 2回 延 58人 ※年2回以上必須研修会参加職員実人数(日赤) <ul style="list-style-type: none"> 医療安全関係 1,107名(98.4%) ※年間研修会参加職員実人数(日赤) <ul style="list-style-type: none"> 医療安全関係 1,126名(99.7%) ※ワーキング
5) 北海道立北見病院との一体的な医療提供体制構築	<ul style="list-style-type: none"> 両院手術室の相互利用に向け、看護師を中心とした打合せを継続。 経費負担が大きい検査等を日赤に移管。 看護師のユニフォーム2色制の導入。 病院食における食糧の統一化を推進。 心エコー対応機器の買収と設備の整備。 PACS画像の相互参照可能。 手術室、3階病棟、ICUにおける在庫管理システム化開始。 令和4年1月より道立病院日曜リハビリ(理学療法)開始。これにより365日の理学療法体制となる。 また、道立で心配運動負荷試験(CPX)開始。 日赤言語療法士による道立入院患者の休日リハビリ検討開始。 令和4年1月からは1回道立遠隔診療を日本の臨床工学技士が実施。 アプリケーション検討チーム会議を開催し、令和4年3月よりアプリケーション特化型増設での運用開始。 日赤当直薬剤師による道立病院薬剤部の夜間対応を開始。 物品や契約の統一・見直し、価格交渉による費用削減(診療材料等 約91万円) 相互診療連携実績 <ul style="list-style-type: none"> 日赤→道立 67件 道立→日赤 2件 相互転院実績 <ul style="list-style-type: none"> 日赤→道立 45件 道立→日赤 33件 外来紹介件数 354件 外来逆紹介件数 423件
6. 地域に開かれた病院を目指します	
1) 市民公開講座の実施	<ul style="list-style-type: none"> 市民公開講座は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施できなかったが、出前講座を開設し下記のとおり実施した。 <ul style="list-style-type: none"> R3.7.9「接遇研修」 <ul style="list-style-type: none"> 対象:社会福祉法人調子府福祉会職員38人 R3.10.18「ストレス対応基礎講座」 <ul style="list-style-type: none"> 対象:北見信用金庫職員45人 R3.10.30「感染予防対策」 <ul style="list-style-type: none"> 対象:北見地産交流支援専門員連絡協議会所属の医療従事者64人 R3.11.17「生活習慣病の予防について」 <ul style="list-style-type: none"> 対象:北見信用金庫職員(特定保健指導担当者)30人
2) ICT(情報通信技術)・マスコミによる地域住民への医療情報提供や当院の活動の周知	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ及び院内掲示により、中長期運営方針に基づき当院の取組を公表。 定例開催のいい香福施設における新型コロナウイルス感染症拡大に伴う業務支援について、天皇・皇后両陛下よりWebによるご視察を受ける。この件については新聞や本社ホームページでも紹介された。
3) 行政等による協議会への積極参加	<ul style="list-style-type: none"> 以下の会議等へ参加し、行政等との連携を図っている。 <ul style="list-style-type: none"> 北網圏域地域医療構想調整会議 北網圏域地域医療構想調整会議医療専門部会 北網圏域福祉圏域連携推進会議在宅医療専門部会 北見地域多職種連携チーム会議 北網圏域福祉圏域連携推進会議在宅医療専門部会 北網圏域リハビリテーション推進会議 北見地域医療供給体制検討会議 北海道いじめ問題等解決支援外部専門家チーム エコー調査北海道エコー北見地区運営協議会 北見市特別支援教育連携協議会 感染症協議会 感染症協議会結核部会 北見市献血協議会 北見市子ども総合支援センター「きりり」 北海道看護専門学校卒業生相談委員及びケース会議 北見市医療福祉情報連絡協議会 認知症患者医療連携協議会 北見地産交流支援専門員連絡協議会自給自足地域支援部会 北海道ブロック都道府県エイズ治療拠点病院等連絡会議 北海道HIV/AIDS医療者研修会並びに各種連絡協議会 公益財団法人北海道移植医療推進財団主催各種協議会 北海道がん看護連携協議会 斜網地区救急体制検討会
4) 救急法等の啓発・普及	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、講習は全て中止となる。赤十字フェスタも中止となり、年度を通じ、啓発・普及の機会を持てなかった。